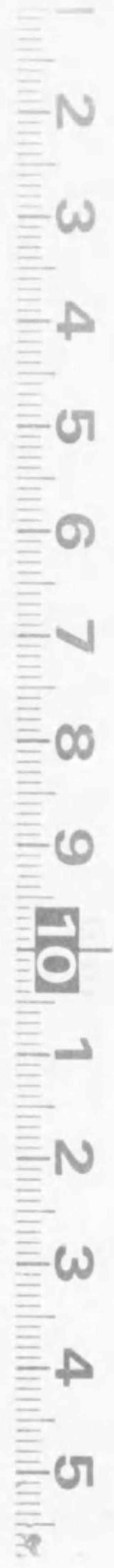


388-275
1200601240958



始



小唄樂譜

象牙の笛

小松耕輔作曲



大正九年七月三日
冬子に贈る



TOKYO
A R S
1920

388

275

序

若くして心豊なる我友よ！

此一卷は君達のために作られ

つれづれなる汽車の旅、

ものかなしく美しくしき春の宵、

磯の松蔭……



I 種

W



1200601240959

かゝるとき我が象牙の笛よ
調べはつたなくとも
情あふるゝ音にひどけ！

一九二〇年 晩春

著者

象牙の笛 目次

- 薄暮(川路柳虹氏作)……………一
- 春の雪(相馬御風氏作)……………五
- なにゆゑに汝は泣く(北原白秋氏作)……………一〇
- 春の讃歌(相馬御風氏作)……………一三
- 雲雀よ、燕よ(相馬御風氏作)……………一八

行く春の愁(相馬御風氏作).....	三
いまひとたび北原白秋氏作).....	二四
初春の歌(相馬御風氏作).....	一九
ひばり(三木露風氏作).....	三三
朝(三木露風氏作).....	三七
夜(相馬御風氏作).....	四一
春のさびしさ(相馬御風氏作).....	四五

夕ぐれの歌(相馬御風氏作).....	四九
春の歌(相馬御風氏作).....	五
春を待つ心(相馬御風氏作).....	五七
解けし氷三木露風氏作).....	六一
なめいし(北原白秋氏作).....	六五
不思議の小鳥(相馬御風氏作).....	六九
緑の夢(相馬御風氏作).....	七三

薄暮

川路柳虹作

室咲きの花相馬御風氏作)七七

初夏相馬御風氏作)八一

緑の小鳥(三木露風氏作)八五

歸帆(三木露風氏作)八九

ひなけし(川路柳虹氏作)九三

月夜(三木露風氏作)九七

装幀 廣川松五郎氏

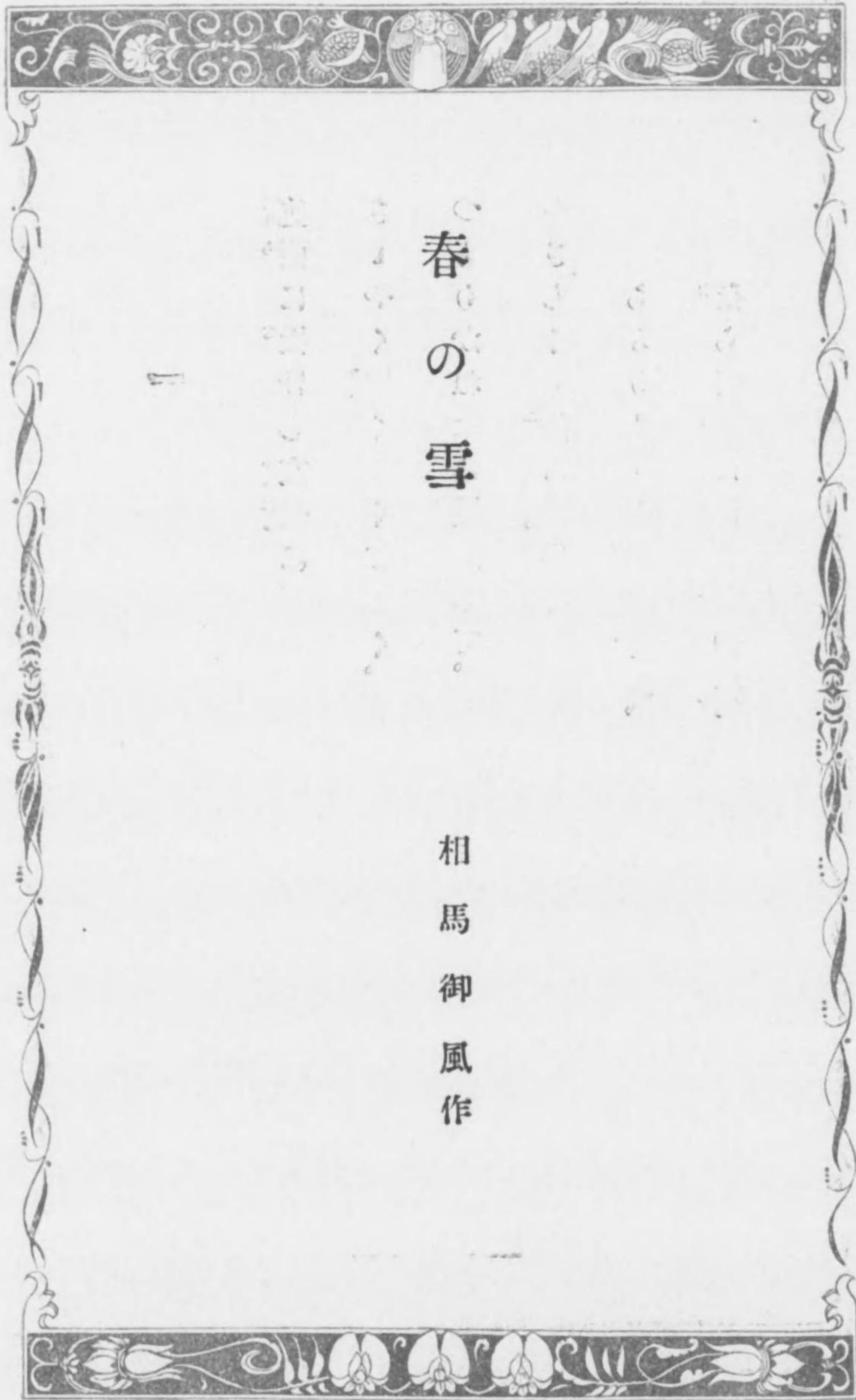
薄 暮

Andante.

p ゆ ふ づ き - は し づ か
 に - か ぜ も あ の み ひ
pp そ め ぬ - た だ き く - は ふ
f た り の む ね - こ の た そ が
p れ - に - な み う て る を -

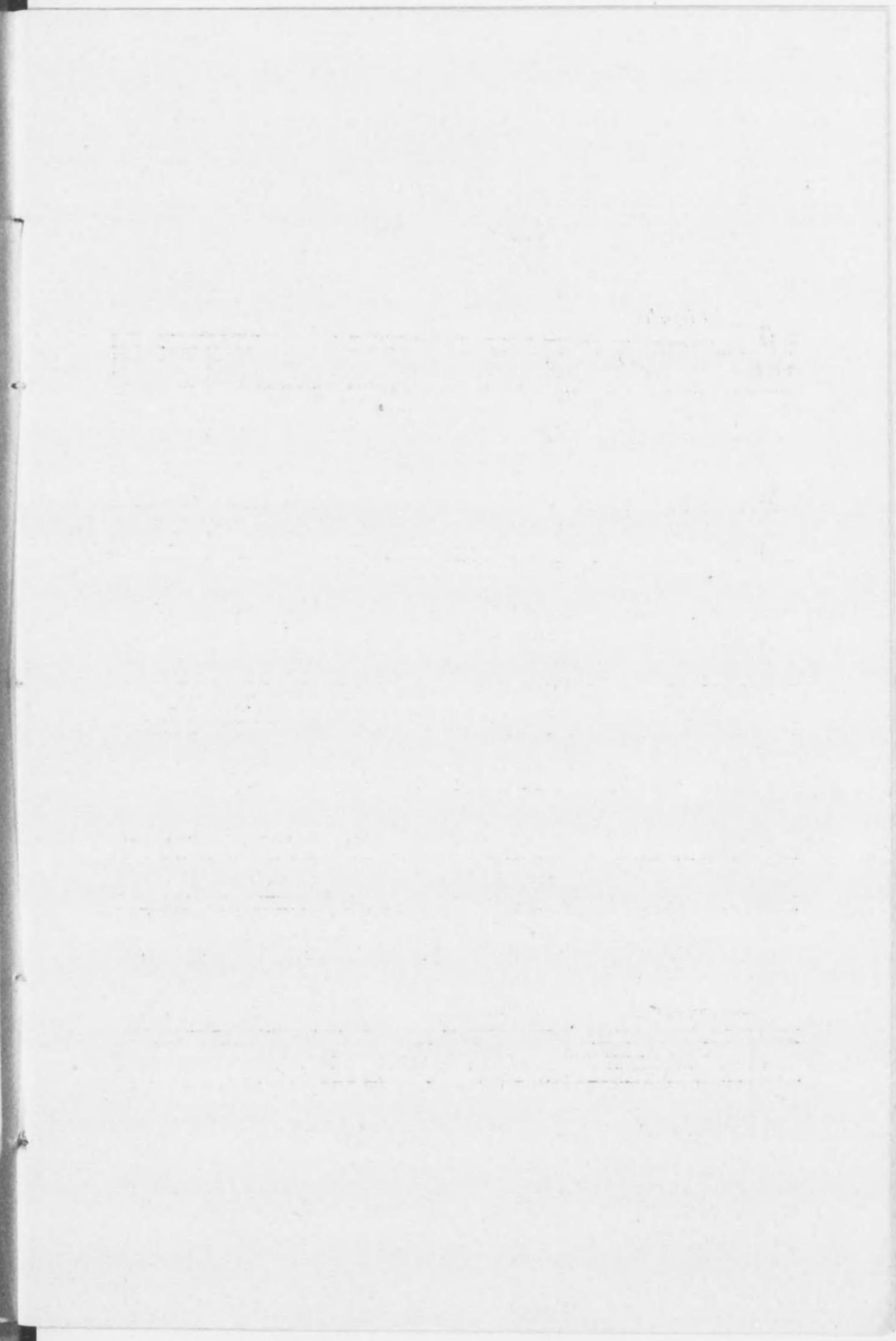
ゆふ月はしづかに
 風もあのとひそめぬ
 たゞきくはふたりの胸
 この薄暮に波うてるを。

— 2 —



春の雪

相馬御風作



一

庭面に投げし文殻に、

さゝやく如く泣くごとく、

つもりかねたる風情して、

やさしくも降る春の雪、

ちらり／＼と胸の戸に、

落ちて消え行く春の夢。

二

夕ざり来れば巷路の

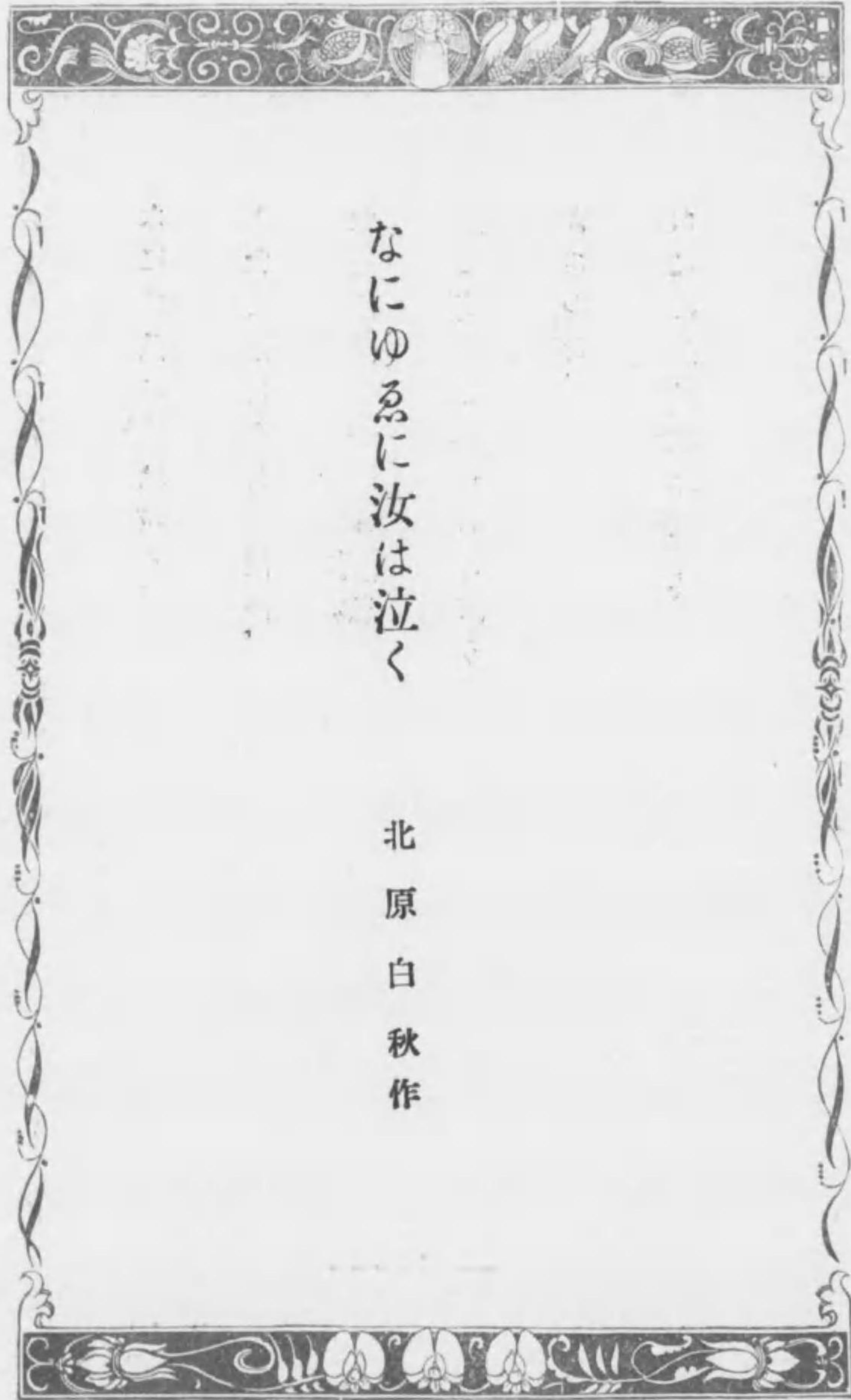
二人が歩む足跡を

消しもかねてや音もなく

止みがてに降る春の雪、

ちらり／＼と胸の戸に、

落ちて消え行く春のゆめ。



なにゆるるに汝は泣く

北原白秋作

春の雪

Andante.
mf

1. ニ ハ モ ニ ナ ゲ シ フ ミ ガ ラ ニ
2. ♪ ふ ざ り く れ ば ち ま た ぢ の

サ サ ヤ ク ゴ ト ク ナ ク ゴ ト ク
ふ た り が あ ゆ む あ し あ こ を

p ツ モ リ カ ネ タ ル フ ゼ イ シ テ
け し も か ね て や お こ も な く

ヤ サ シ ク モ フ ル ハ ル ノ ユ キ
や み が て に ふ る は る の ゆ き

mf チ ラ リ チ ラ リ ト ム ネ ノ ト ニ
ち ら り ち ら り ミ む ね の こ に

f オ チ テ キ エ ユ ク ハ ル ノ ユ メ
お ち て き え ゆ く は る の ゆ め

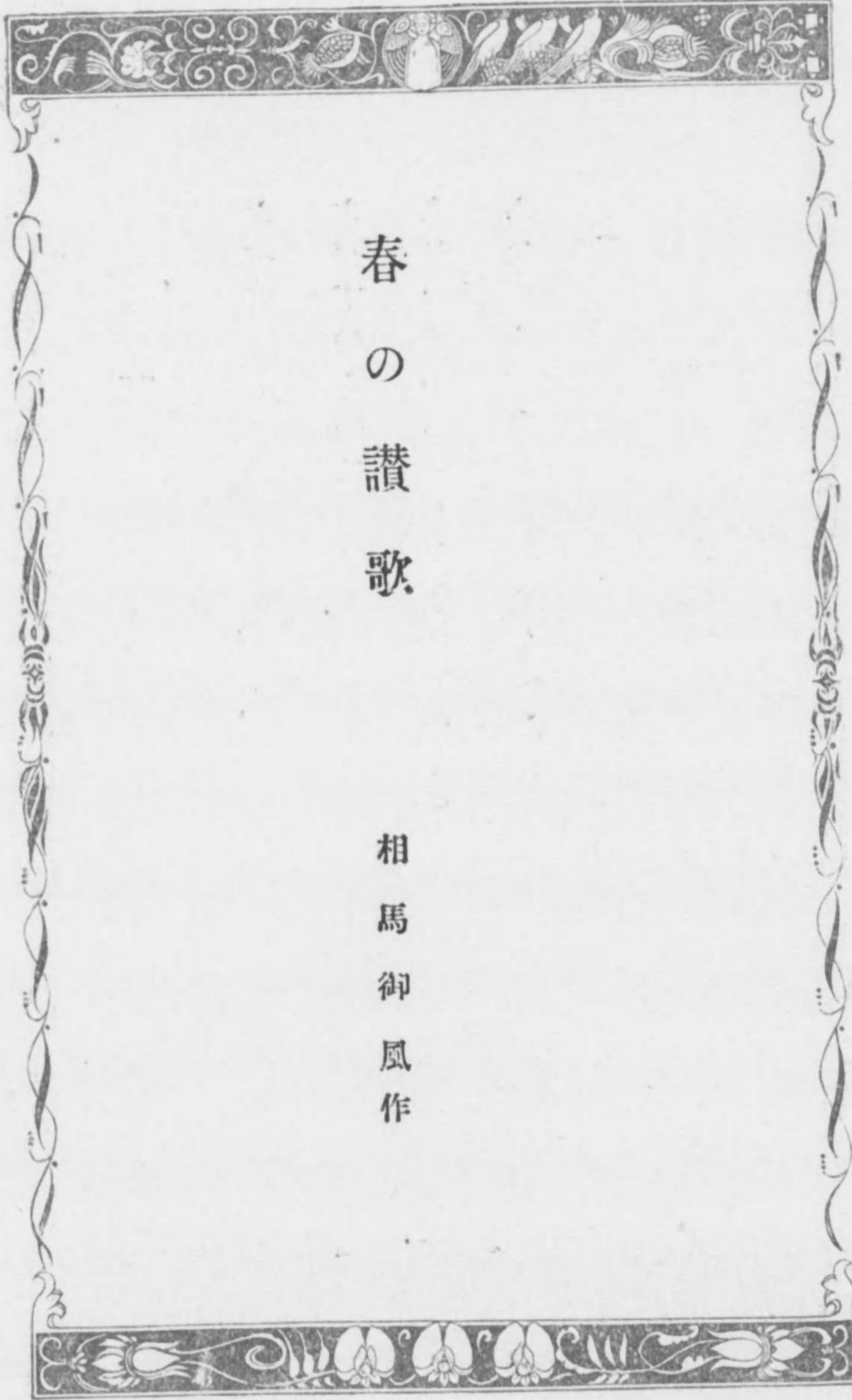
cresc.

なにゆるに汝は泣く

Andante.
P

なにゆるになはなく あたたかに
 ゆふひにほひ たんぼのやはき
pp
 た め い き - の に む
mf
 し - て あ ま く ち ら ば う
 さ る を ん な な に ゆ
f
 ゑ に な は な - く -

なにゆるに汝は泣く、
 あたたかに夕日にほひ、
 たんぼのやはき溜息
 野に蒸して甘くちらばう。
 さるを女、
 なにゆるに汝は泣く。



春
の
讚
歌

相
馬
御
風
作

—
なべてのものを照らす春の光
なべてのものに充つる若き命
あはれそのあたゝかき光たゝへよ
あはれその力ある命たゝへよ
歌へ、歌へ、歌へ、

若き子等よ歌へ。

—

わかき胸にみなぎる若き力
新らしき世を望む燃ゆる心
あはれその新らしき力たゝへよ
あはれその新らしき心たゝへよ
歌へ、歌へ、歌へ、

若き子等よ歌へ。

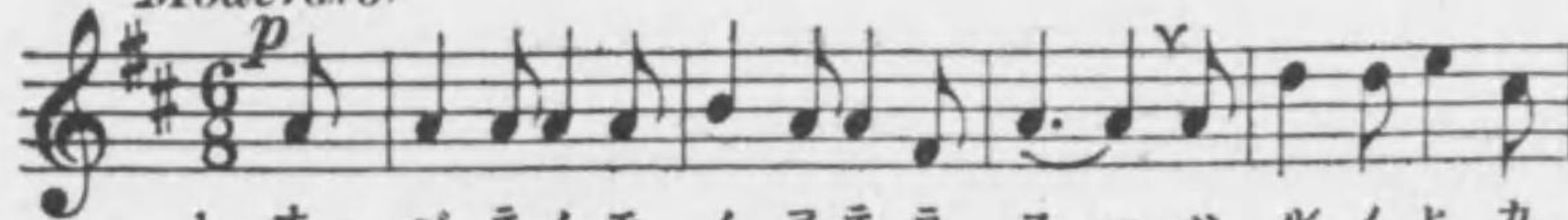


雲雀よ、燕よ

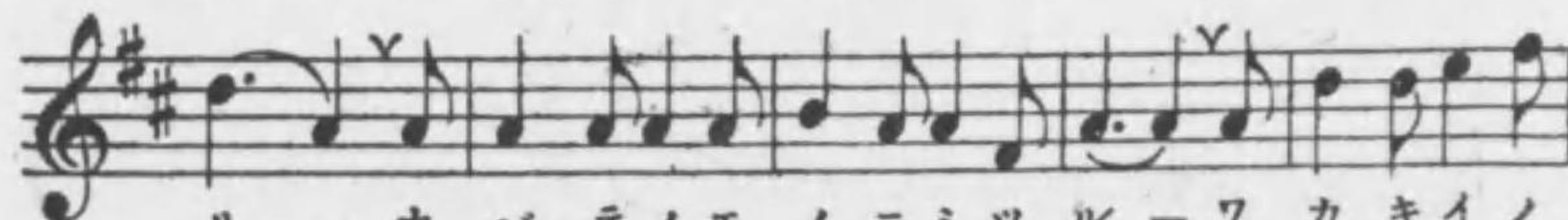
相馬御風作

春の讃歌

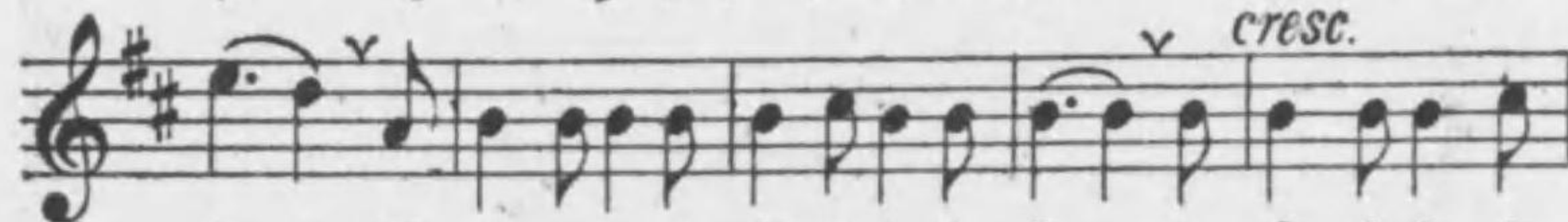
Moderato.



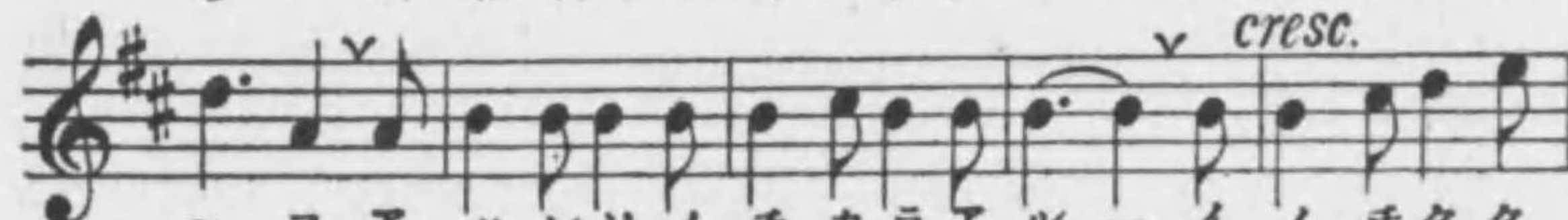
1. ナベテノモノヲテラスーハルノヒカ
2. わかきむねにみなぎるーわかきちか



リーナベテノモノニミツルーワカキイノ
らーあたらしきよをのぞむーもゆるここ



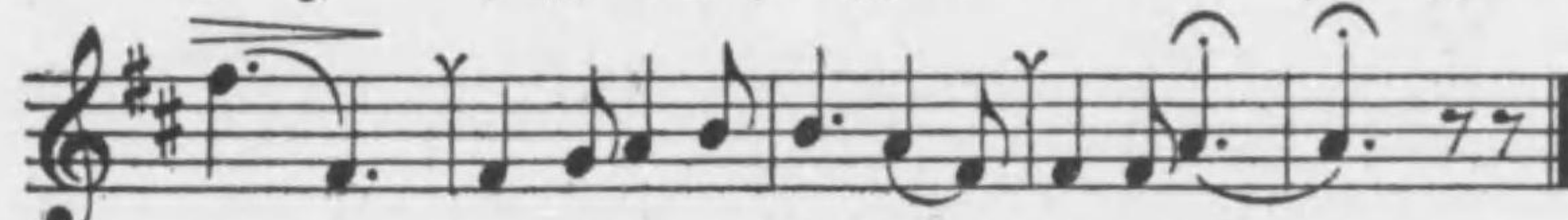
チーアハレツノアタカキーヒカリタタ
ろーあはれそのあたらしきーちからたた



へヨアハレツノチカラアルーイノチタク
へよあはれそのあたらしきーこころたた



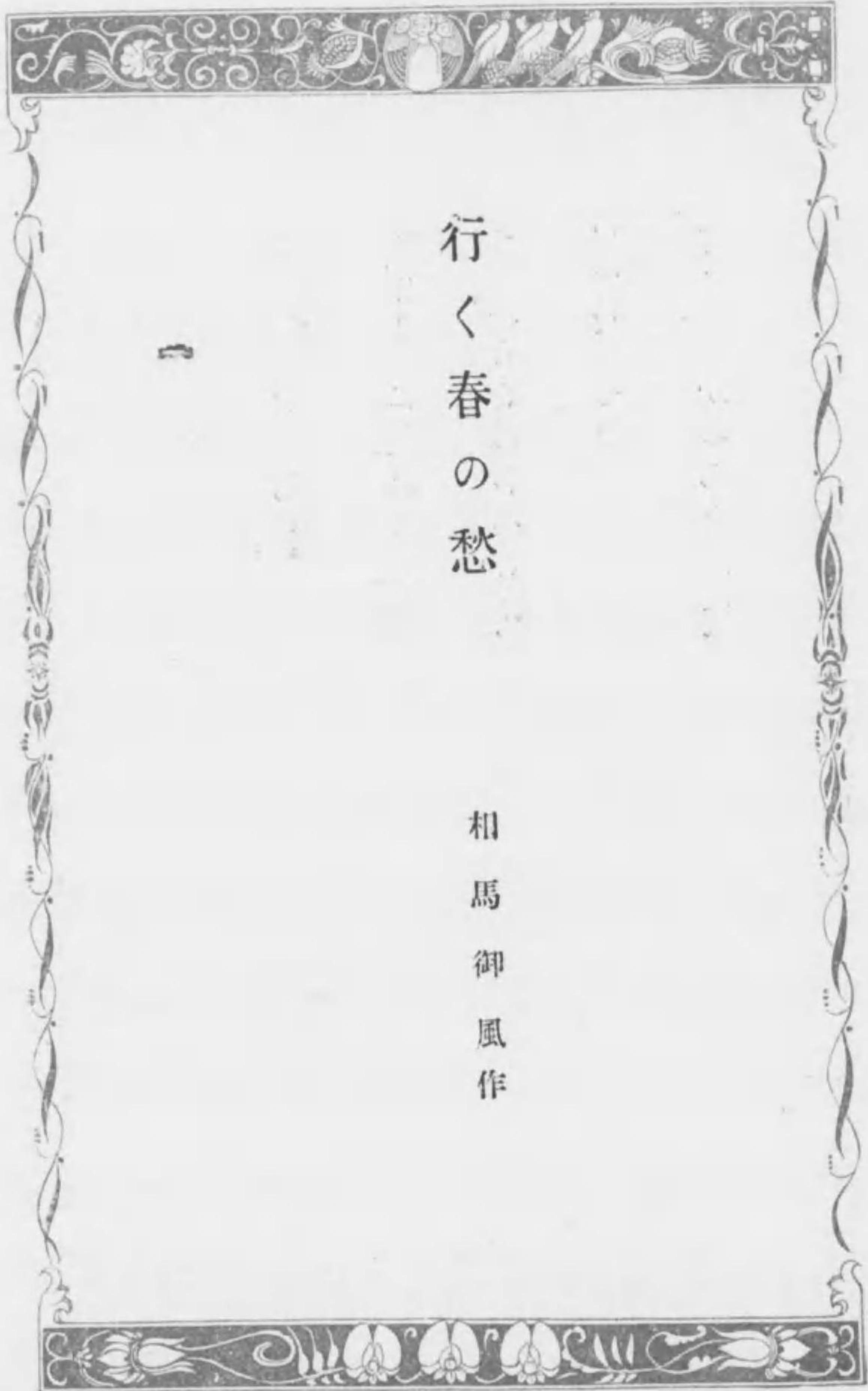
へヨウタへーウタへーウター
へようたへーうたへーうたー



へーワカキヨラヨーウタへー
へーわかきこらよーうたへー

— 1 —
ひばり、ひばり、
何を求めて鳴くや、ひばり。
汝が聲聞けばわれもいつか、
此の世忘れて夢見ごゝち、
空しき空を行方知らず、
果はさびしき我にかへる。
ひばり、ひばり、
さびしき思、鳴くやひばり、

— 2 —
つばめ、つばめ、
古巢もとめて鳴くや、つばめ。
汝が聲きけばわれもいつか、
心の古巢求めわびて、
あだなる夢の旅路はるか、
果はさびしき我にかへる。
つばめ、つばめ、
古巢失ひ鳴くや、つばめ。



行く春の愁

相馬御風作

雪雀よ、燕よ。

Moderato.

mf

1. ヒーバリヒバリ ナニヲモトメテ
 2. つばめつばめ ふるすもこめて

ナクヤヒバリ ナガコエキケバ
 なくやつばめ ながこゑきけば

ワレモイッーカ コノヨワースレテ ユメミゴ
 われもいっーか こころのふるすもこめわ

コチムナシキソラヲユクヘシラス
 びてあだなるゆめのたびぢはるか

mf

ハテハサビシキワレニカヘルヒーバリ
 はてはさびしきわれにかへるつばめ

ヒバリサビシキオモヒナクヤヒバリ
 つばめふるすうしなひなくやつばめ

一
緑濃き若葉の森の、
木がくれに残れる春の、
夢の跡もとめわづらふ、
あはれ、その鶯の聲、
行く春のかなしき調べ。

二
うす曇る空のあなたへ、
消えて行く里の煙の、
たゆげなる姿を見れば、
わが心そゞろにおほゆ、
行く春のかなしき思ひ。



いまひとたび

北原白秋作

行く春の愁

Andante.
mf

1. ミー ドリ コ キ ワカバノモリ
2. うー すぐも る そらのあなた

ノ コー ガク レ ニ ノ コ レ ル ハ ル
ヘ キー エ テ ヨ ク サ ミ の ケ ム リ

v.f *cresc.*

ノ ユ メ ノ アー ト モ ト メ ツ ヅ ラ フ
の た ヨ ゲ ナ ー る す が た を み れ ば

p *rit.*

ア ハ レ ソ ー ノ ウ グ ヒ ス ノ コ エ ユ ー
わ が こ こ ー ろ そ ぞ ろ に お ぼ ヨ ヨ ー

ク ハ ル ノ カ ナ ツ キ シ ラ ベ
く は る の か な し き お も ひ

いまひとたび

Andante.

p や は ら か き か か る ひ

ひ かり の な か に - い

ま ひ と た び - あ は れ

- い ま ひ と た び - ほ の

- か に も も ら し た ま ひ

ね - わ れ を こ ふ こ

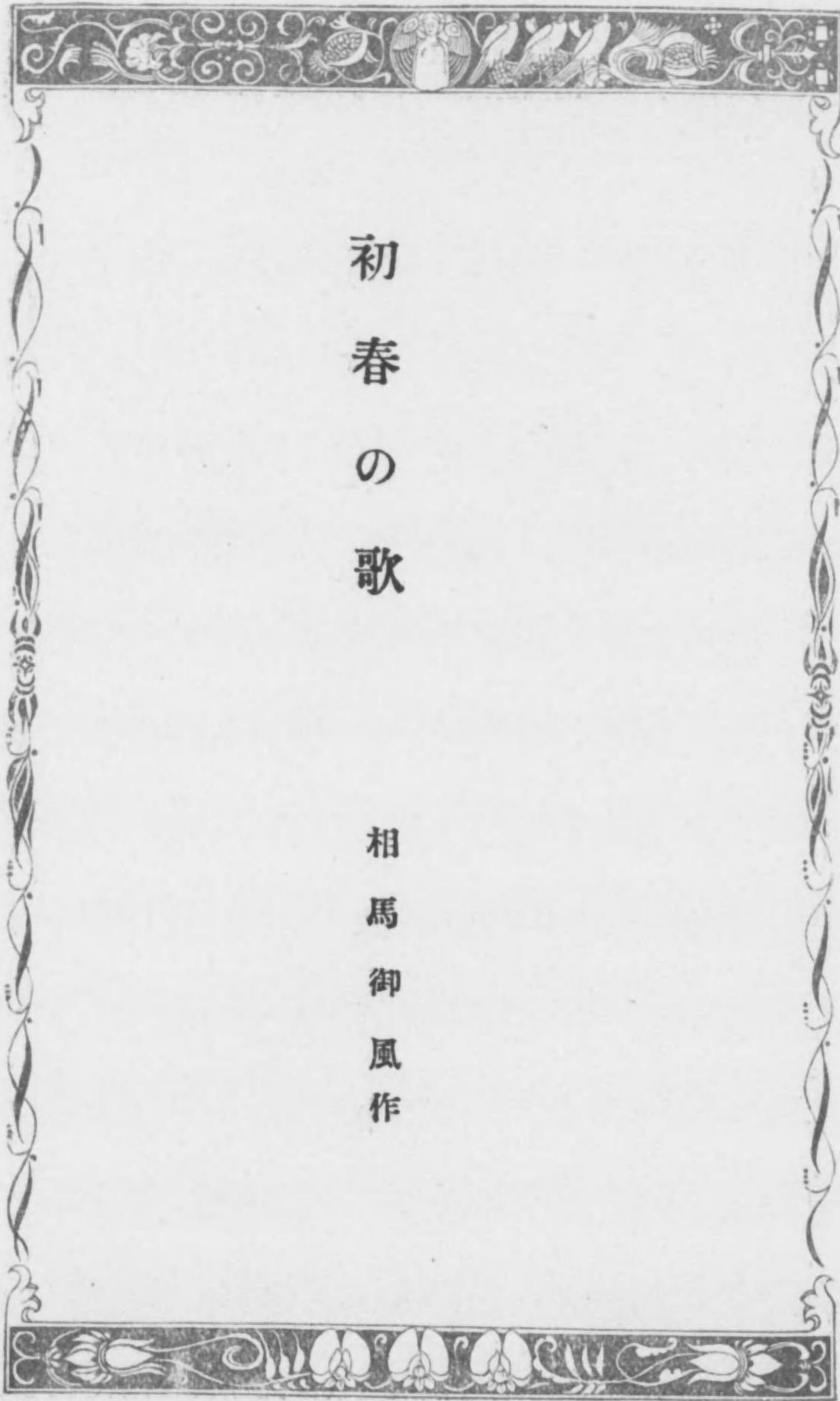
p *pp*

われを戀ふと。

ほのかにももらしたまひね

いまひとたび、あはれ今一度

柔かきかゝる日の光の中に



初
春
の
歌

相
馬
御
風
作

—

黄色なる水仙の蕊

見つめつゝ聞けば悲しき

盲ひたる女がうたふ

巷路の初春の歌

あはれ、その初春のうた。

二

窓を吹く嵐の音に

ふるへつゝ聞けばをかしき

囚はれの籠の中なる

うぐひすの初春のうた

あはれ、その初春のうた。



ひ
ば
り

三
木
露
風
作

初春の歌

Moderato

mf

1. キイロナルスキセシノーシーベ ミツ
2. まごをふくあらしのおミーに ふる

p

メツツキーケバカーナーシーキノシ
へつつきけばをカーシーきミラ

ヒタルヨナガウクフチマクキノ
はれのかこのなかなるうぐひすの

pp

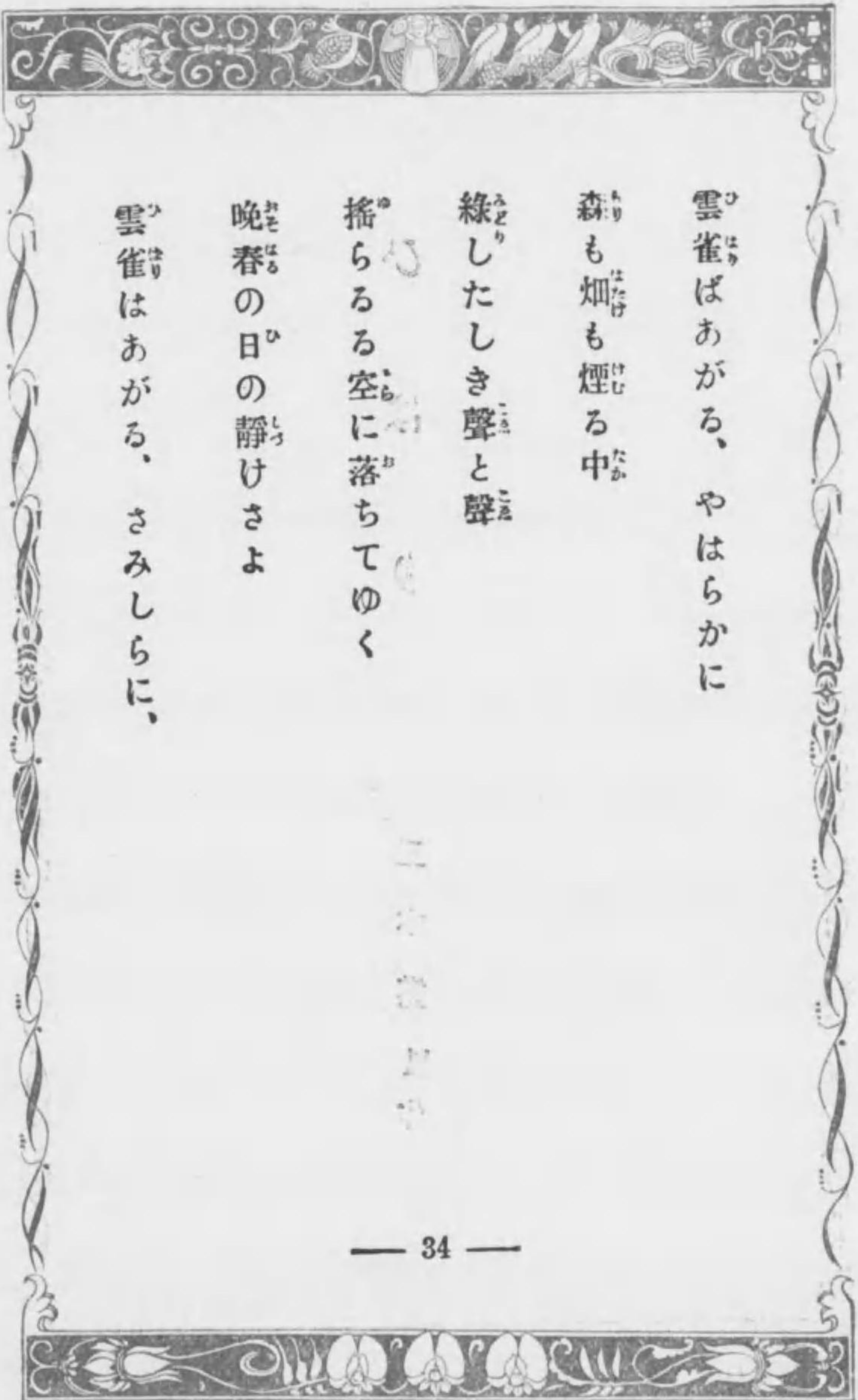
ハツハルノーウータアハ
はつはるのうたあは

レソノハツハルノウクタ
れそのはつはるのうた

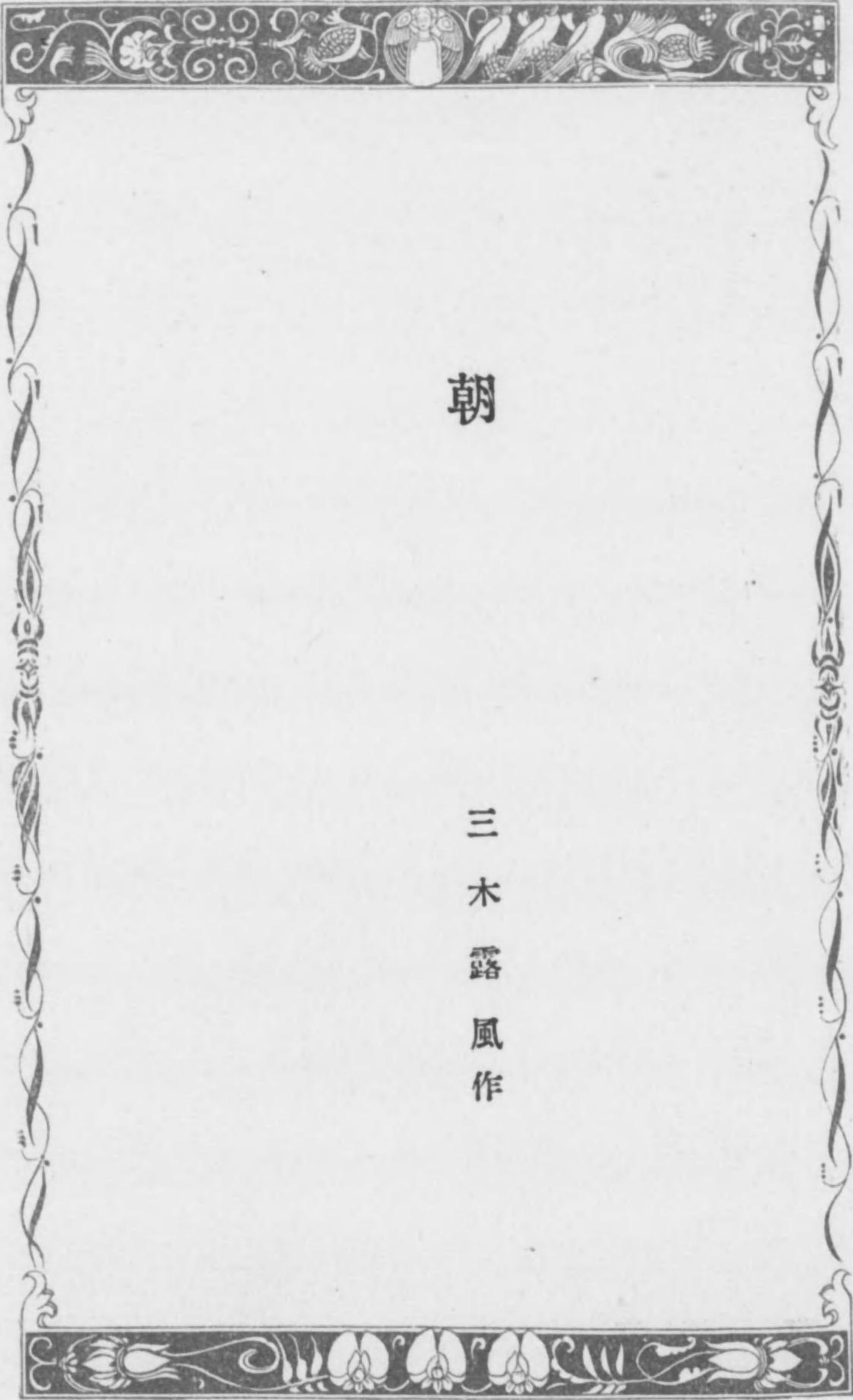
ひばり

Moderato assai.

f ひばりはあがるやはらかに
 もーりもはたけもりむるなか
mf みーざりしたしきこゑとこゑ
 ゆらるるそーらにおらてゆく
 おそはるのーひのしづけさよ
pp *rit.* ひばりはあがるさみしらに



雲雀はあがる、さみしらに、
 晩春の日の静けさよ
 揺らるる空に落ちてゆく
 緑したしき聲と聲
 森も畑も煙る中
 雲雀はあがる、やはらかに



朝

三木露風作

朝

Modrato
mf

きりはれ—てゆく をちこ—ち—に —

こがねの—むらは あから—み—ぬ —

pp

やはら—ぐ—こゑは おこり—き—て —

mp

たにの—そ—こより たちの—ぼ—る —

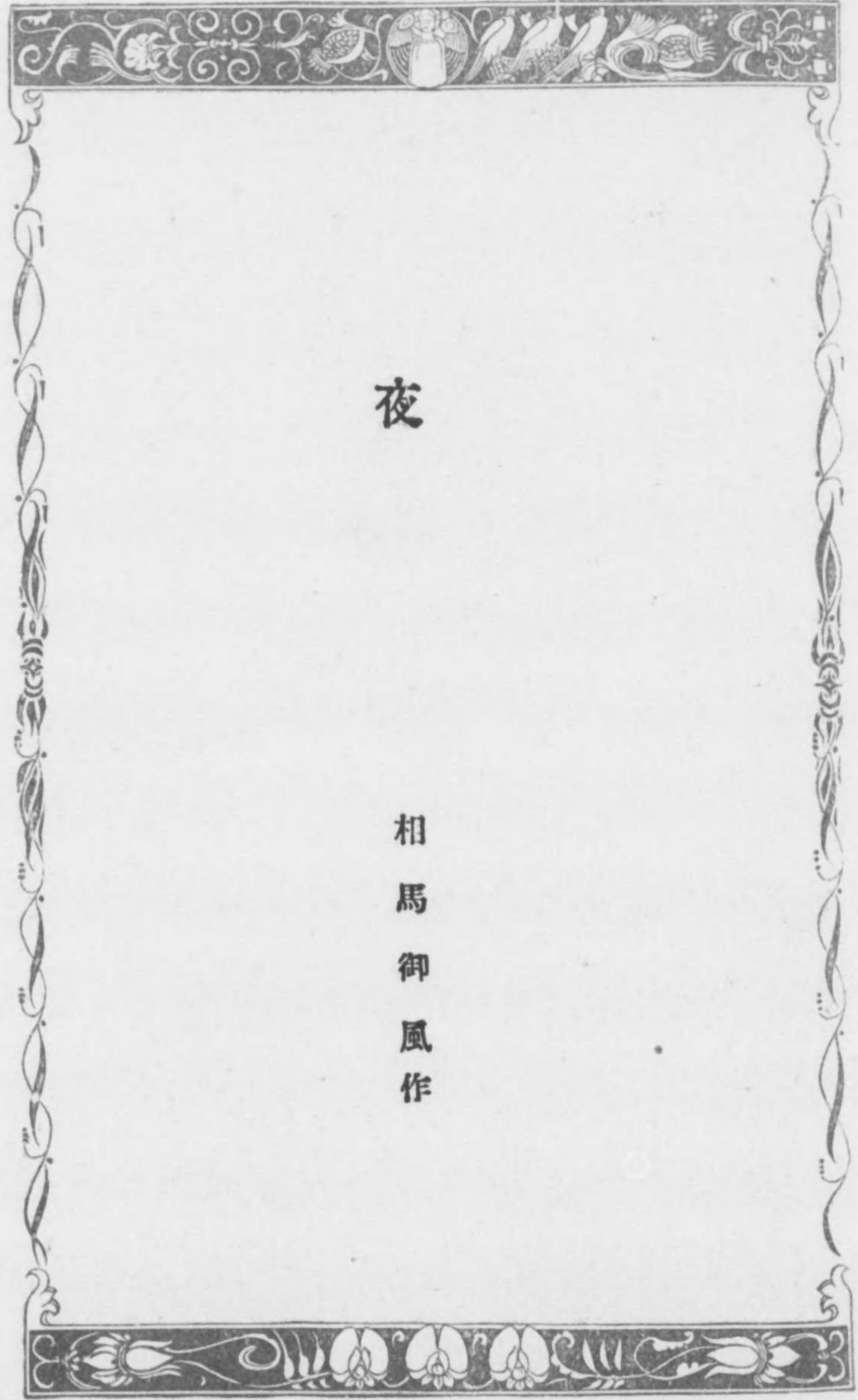
mf

きらめく—つゆは ひをむ—か—へ —

f

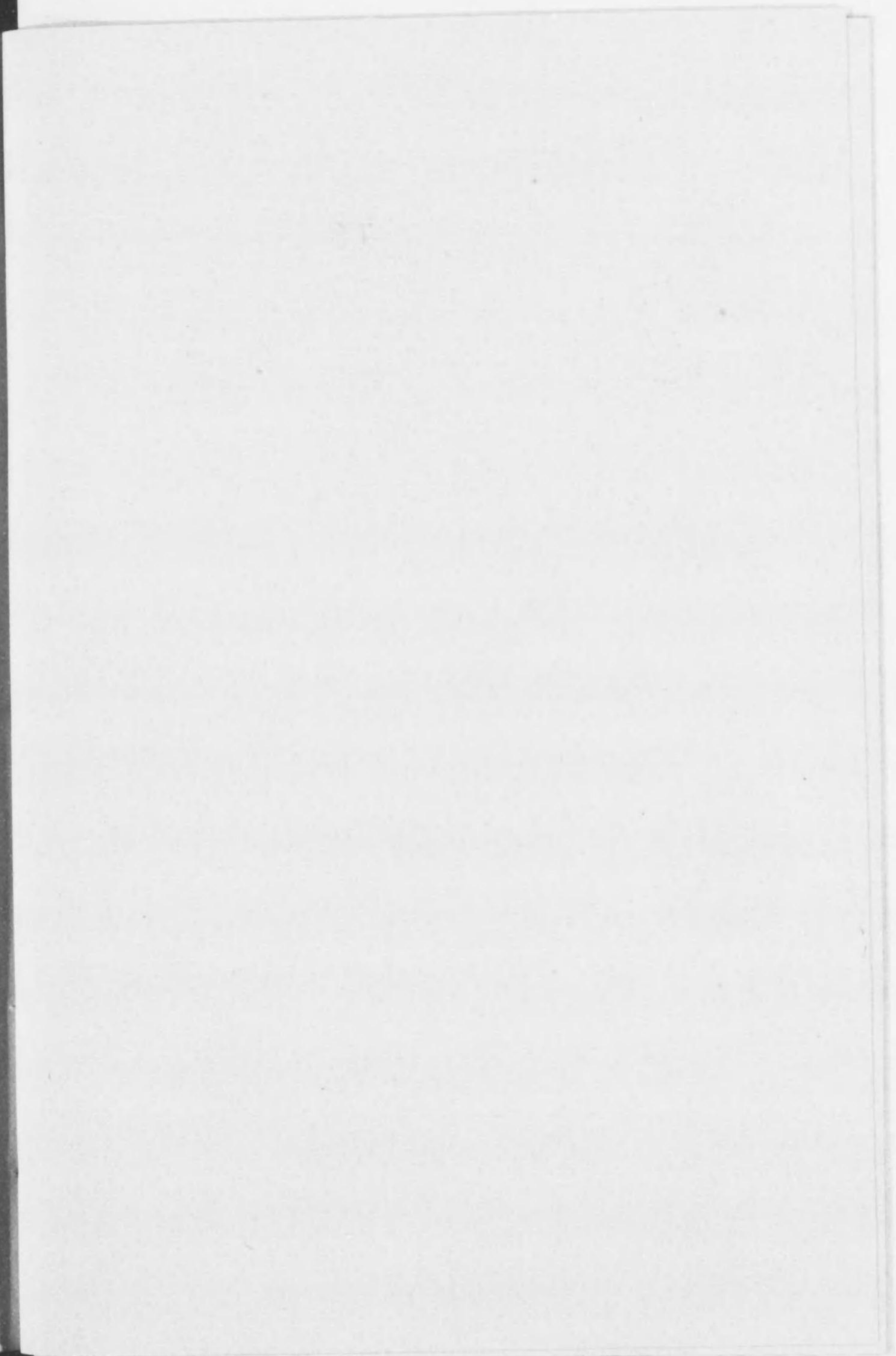
けふあ—ら—たなる さちを—す—ふ —

霧はれてゆくをちここに
黄金の村はあからみぬ。
和らぐ聲はおこりきて
谿の底よりたちのほる。
きらめく露は日をむかへ
今日あらたなる幸を吸ふ。



夜

相馬御風作



わが胸は深山がくれの

ほのぐらき森のみづうみ

寂しさは常世に充ちて

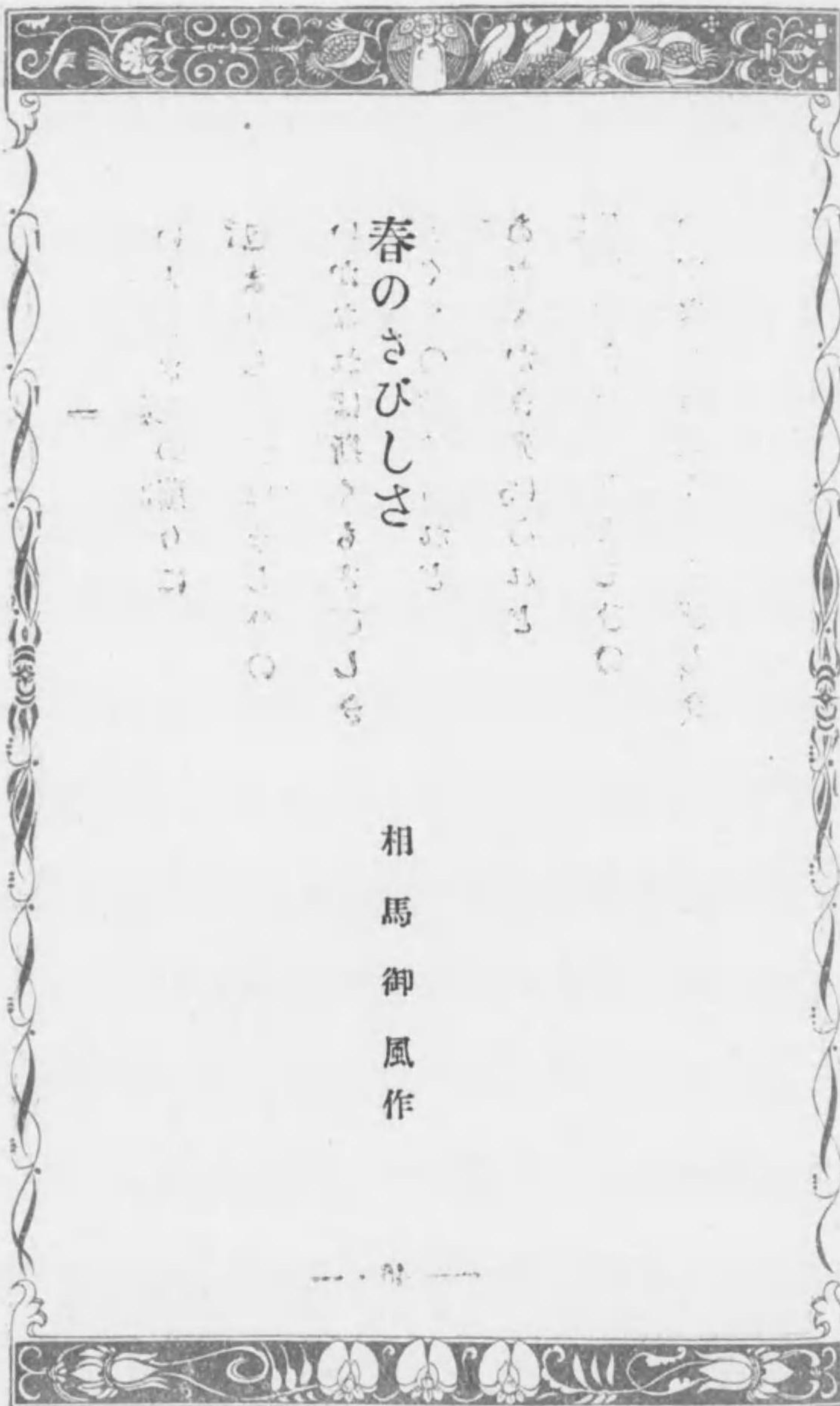
影うつす花だにあらず。

われを戀ふ君が思ひは

幾億里遠き空より

夜毎わが胸にぞうつる

蒼白き星のかゞやき。



春のさびしさ

あけのぼる朝陽の光を
 ながめながら
 春のさびしさ
 ながめながら

相馬御風作

夜

Andante, espressivo.



1. フガムネ ハ ミヤマガ - グレノ
 2. われをこぶ きみがお - もひは



ホノグラ キモリノミ - ヅウミ
 いくおくりごはきそ - らより



サビシサ ハトコヨニ - ミチヲ
 よごむわがむねにぞ - うつる



カゲウツス ハナダニアラズ -
 あをじろきほしのかがやき -

一
いと甘き花の薫りに
包まれしわがたましひの
いかなれば斯くもさびしき
若ぐさの衾はあれど
あたゝかき光はあれど
住家なきわがたましひの
いかなれば斯くもさびしき。

二
美しき花野を縫ひて
流れ行く水の行方の
いかなればかくもさびしき。
おほろなる空の曇りに
いづことも在所得知れぬ
かすかなる雲雀の歌の
いかなればかくもさびしき。



夕ぐれ
の歌

相馬御風作

春のさびしさ

Moderato

p

1-イトアマキ - ハナノカラリニ ツツ
2 うつくしき - はなのをぬひて なが

cresc

マレシワーガタマシヒノ イカナレバカ
れゆくみづのゆくへの いか なければか

f *p* *pp*

クモサービシーキ ワカグサーノ シト
くもさびしき おぼろなる そら

ネハアレド アークターカキヒカリハアレ
のくもりにいづ こゝもありかえしれ

p

ド スミカナキ - ワガタマシヒノ イー
ぬ かすかなる - ひばりのうたの い

cresc.

カ ナレバカクモサービシーキ
か なければくもさびしき



—

友よ、いま、

暫し戸あけて、

夕ぐれの

空をながめよ、

薄絹に

包める、ゆかし、

頬のごとも

雲ぞ匂へる。



二

友よ、いま、

しばし聴けかし

戀びとの

胸のごとくも、

おほろなる

空の奥より

得知れざる

鳥の音すなり。



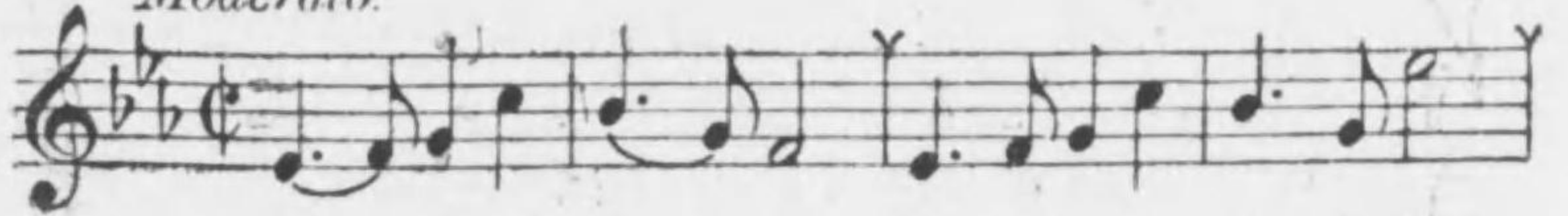


春のうた

相馬御風作

夕暮の歌

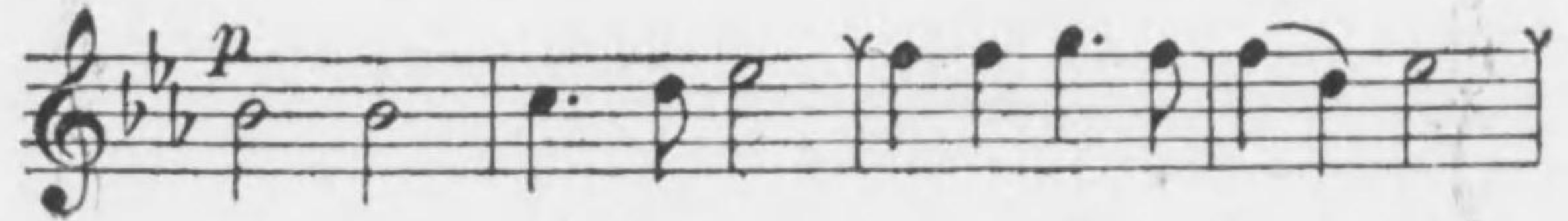
Moderato.



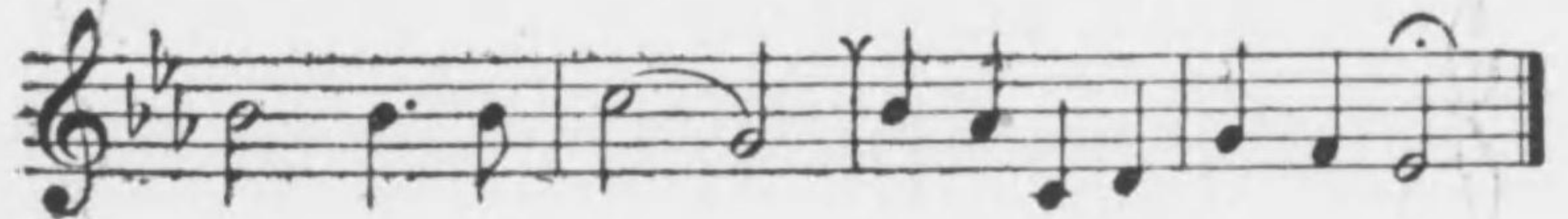
1 トーモヨイーマシバシトアケテ
2 ミーもよいーましばしきけかし



ユフグーレーノソラヲナガメヨ
こひーびきのむねのごきくも



ウスギヌニツツメルユカシ
おぼろなるそらのおくより



ホノゴトモクモゾニホヘル
えしれざるさりのねすなり

—
野に出でよ。野に出でよ。

雪霜にとざれし

地は今し歡びの

胸ひらき、幸醸す。

いざ共に新らしき

春の歌うたひつゝ

春のゆめたづねまし。

二

野に出でよ。野に出でよ。

悲しみはありとても

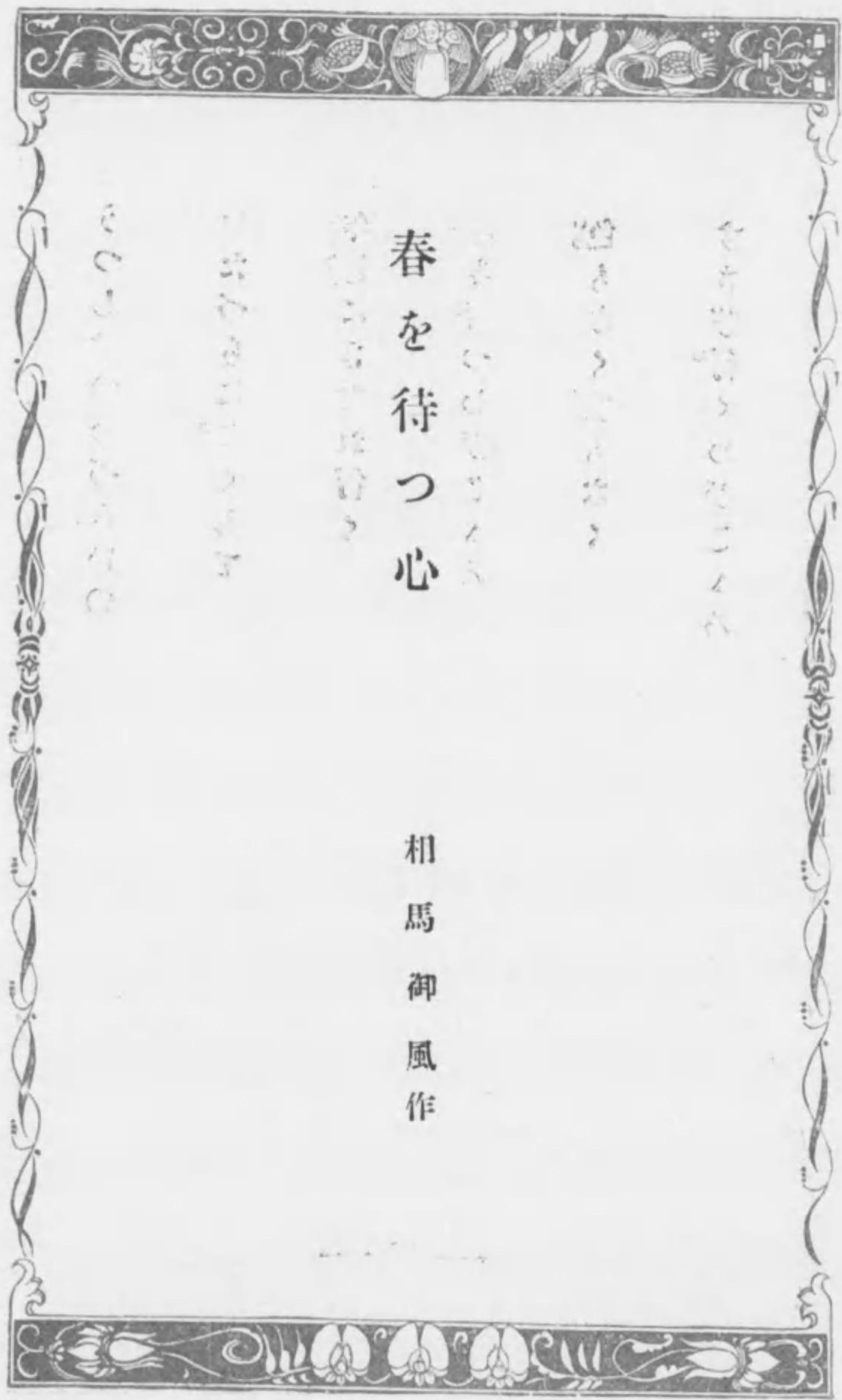
胸の戸をひらきなば

あたゝかき春の日の

光こそ射し入らめ

いざ共に新らしき

春の幸たづねまし。



春を待つ心

相馬御風作

春を待つ心
 春を待つ心
 春を待つ心
 春を待つ心
 春を待つ心
 春を待つ心

春のうた

Andante

1-ノイ デヨ ノイ デヨ ユキシモニ
 2. のにい でよ のにい でよ かなしみは

トザサレシ チハイ マシヨロコビノ
 ありとて も じねのこをひらきなば

ムネヒラキ サチカモス イザトモ
 あたたかき はるのひの じかりこ

ニ アタラシキ ハルノウタウタヒ
 そ さしいらめ いざごもにあたら

ツツ ハルノユメータツネマシ
 しきはるのさ らーたづねまし

うつし世のわづらひの

いたづらに多くして

年毎にさびれ行く

春を待つわがこゝろ

色もなく香もなく

すさび行くわがこゝろ

あはれ、かくてぞ

幾年か経ん

よみがへれ、わがこゝろ

いざや、今年の春と共に

よみがへれ、わがこゝろ。

解
け
し
氷

三
木
露
風
作

春を待つ心

Andante.
mf

うつしのわづらひのいたづらにおはくして

p

としごろにさびれゆくはるをまつわがころ

p

いろもなくかもなくすさびゆくわがころ

p solo voce.

あはれかくてぞいくとせ

a tempo

かへんよみがへれわがころいざやここの

f

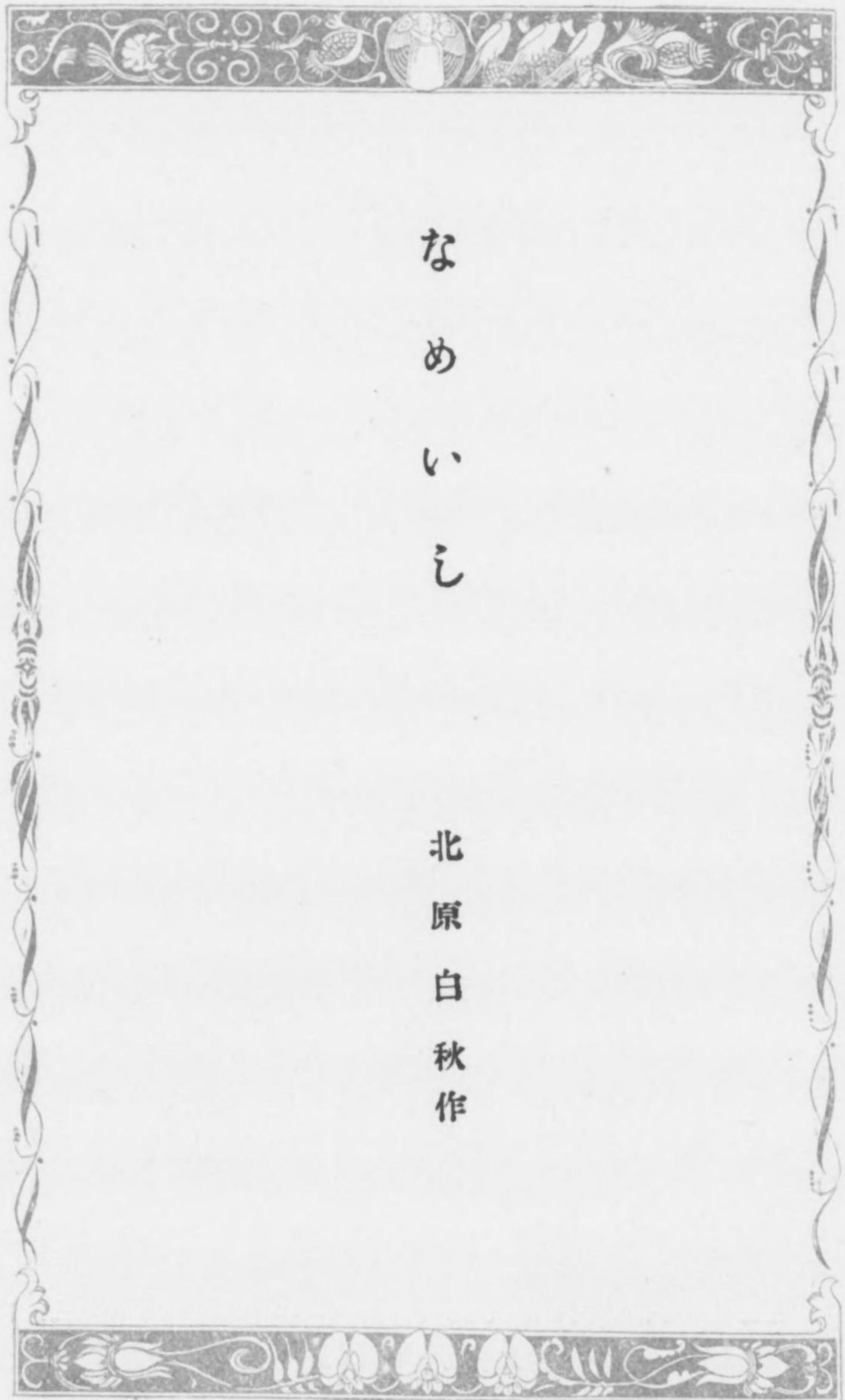
はるこどもによみがへれわがころ

解けし氷

Allegro.

ミ - け - し こほり - を いづこ - へ - は こぶ
 は - る - よ - は るよ そよか - ぜ - よ
 き のふ - の - ゆめをいかにして
 た のし - き ち - め - を いづこ - へ - は こぶ
 は - る - よ - は るよ そよか - ぜ - よ
 け ふの - ま - こ どもは ありや - な - し

とけし氷をいづこへはこぶ。
 春よ、春よ、そよかせよ
 昨日のゆめをいかにして。
 たのしき胸をいづこへはこぶ。
 春よ、春よ、そよかせよ
 今日の眞實はありやなし。



な
め
い
し

北
原
白
秋
作

ふゆいし

Andante.

p い や ふ り て な め い し は

mf い よ - よ ま し ろ に

い や ふ り て か な し み は

CRESC. い よ - よ あ た ら し

p い や ふ り て い や 清 く

p い よ よ か - な し く

い や 古 り て 大 理 石 は

い よ よ 真 白 に。

い や 古 り て か な し み は

い よ よ 新 ら し。

い や 古 り て い や 清 く、

い よ よ 悲 し く。



不思議の小鳥

相馬御風作



不思議の小鳥

Moderato

The musical score is written on seven staves in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 6/8 time signature. The tempo is marked 'Moderato'. The lyrics are written below the notes. The score includes dynamic markings such as *mf*, *p*, *rit.*, and *pp*. The piece concludes with a fermata over the final note.

きのふもけふもわがにはにー
 すがたをみせずなくこもりー
 ミしくるるひもあーたらしき
 ミしのはじめのけふもまーた
 おなじねいろになくこもりー
 ひろくもあらぬわがにはへー
 なにをしたうてかくはくるー

昨日も今日もわが庭に
 姿を見せず鳴く小鳥
 年暮るゝ日も、新らしき
 年のはじめの今日もまた
 同じ音色に鳴く小鳥
 広くもあらぬわが庭へ
 何をしたうてかくは来る。



緑
の
夢

相馬御風作

緑の夢

Andante con espressivo.

p
み ざ り こ き な つ は わ が ゆ め を

つ つ め り よ る こ な く ひ る こ な く

pp *p*
な も し れ ん ん こ り の ・ う た ぞ

き こ ゆ る あ は れ そ の こ く す べ も

cresc.
な き う た の お も ひ

緑濃き夏は
わが夢をつゝめり。
夜となく晝となく、
名も知れぬ鳥の
歌ぞきこゆる。
あはれ、その
解くすべもなき歌のおもひ。

A decorative border with floral and scrollwork patterns surrounds the text on the left page. The top and bottom borders are wider and feature more intricate designs, while the side borders are narrower and consist of repeating scroll motifs.

室
咲
き
の
花

相
馬
御
風
作

一

薄白き

冬の日影にうちふるふ

室咲きの花のしほらしさ

そのしほらしさ、それゆゑに

室を出されてしほみゆく

花の心のいとほしや。

二

南の

あたゝかき野を故郷の

室咲きの花のうつくしさ、

そのうつくしさ、それゆゑに

北の國へと囚はるゝ

花の心のいとほしや。



初

夏

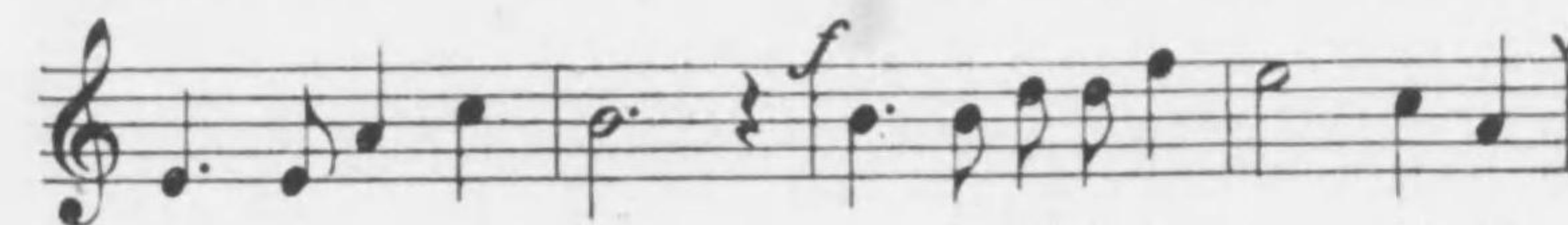
相馬御風作

室咲きの花

Moderato.



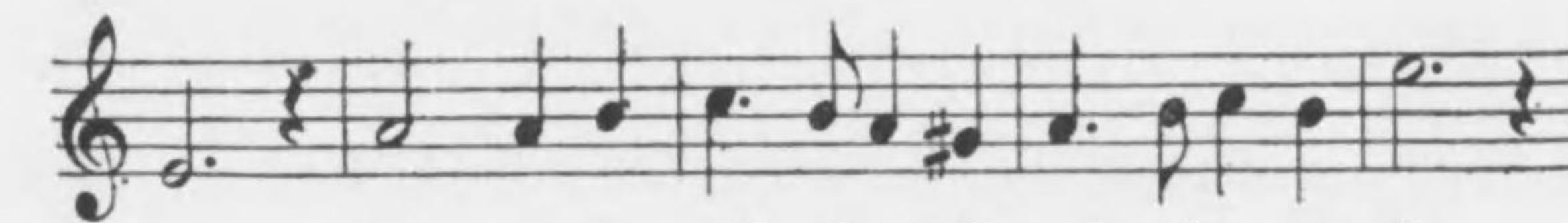
1. ウ ス ジ ロ キ フ ユ ノ ヒ カ ゲ ニ
2. み ん な み の あ た た か き - の を



ウ チ フ ル フ ム ロ ザ キ ノ ハ ナ ノ
ふ る さ こ の む ろ ぎ き の は な の



シ ホ ラ シ サ ソ ノ シ ホ ラ シ サ ソ レ ユ エ
う つ く し さ そ の う つ く し さ そ れ ゆ ゑ



ニ ム ロ ヲ ダ サ レ テ シ ボ ミ ユ ク
に き た の く に へ こ さ ら は る る



ハ ナ ノ コ コ ロ ナ イ ト ホ シ ヤ
は な の こ こ ろ の い み ほ し や

—

若葉のかをり胸に泌み

初夏の森なつかしや。

わが幼な日のかなしみも。

よろこびも。はた、あこがれも。

今なほそこにたゞよへる

みどりの森のなつかしや。

二

雨にぬれつゝさまよひし

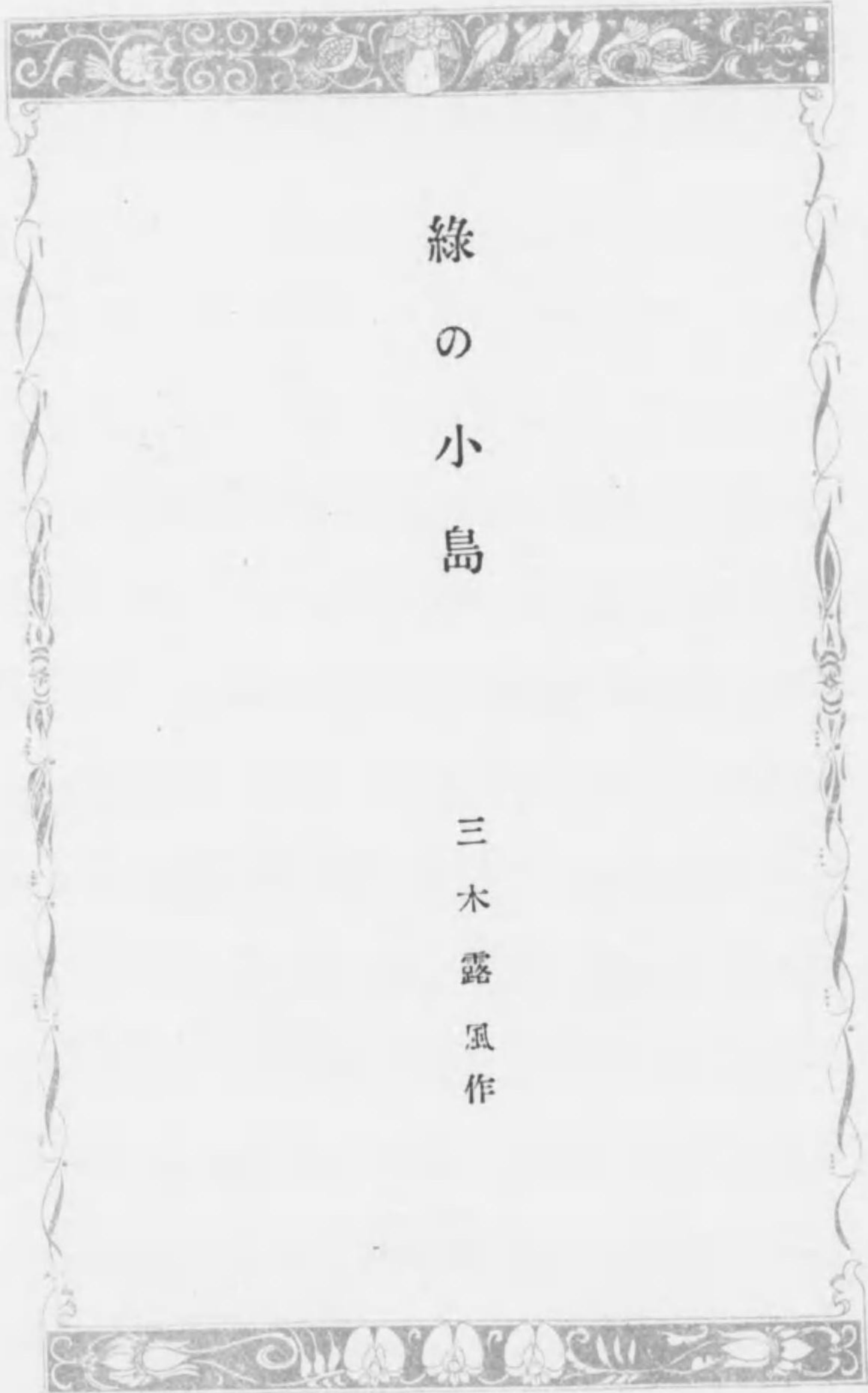
とある垣根のおもひでも

初夏なればいとかなし。

名知らぬ草のあかき花

摘みて秘め來しふるさとの

木陰の夏のなつかしや。



緑
の
小
島

三
木
露
風
作

初 夏

Moderato.
p

1. ワカバノ カラーリ ムネニミチ
2. あめーに めれつつ さまよひし

p

ハツナツノ モーリ ナツカシヤ
こあるかきねーの おもひでも

ワガヲサナビノ カナシミモ
はつなつなればいひこかなし

ヨロコビモハタ アコガレモ
なしらぬくさの のかきはな

CRESC.

イマナホソコニ ターグヨヘル
つーみてひめこし ふーるさこの

p

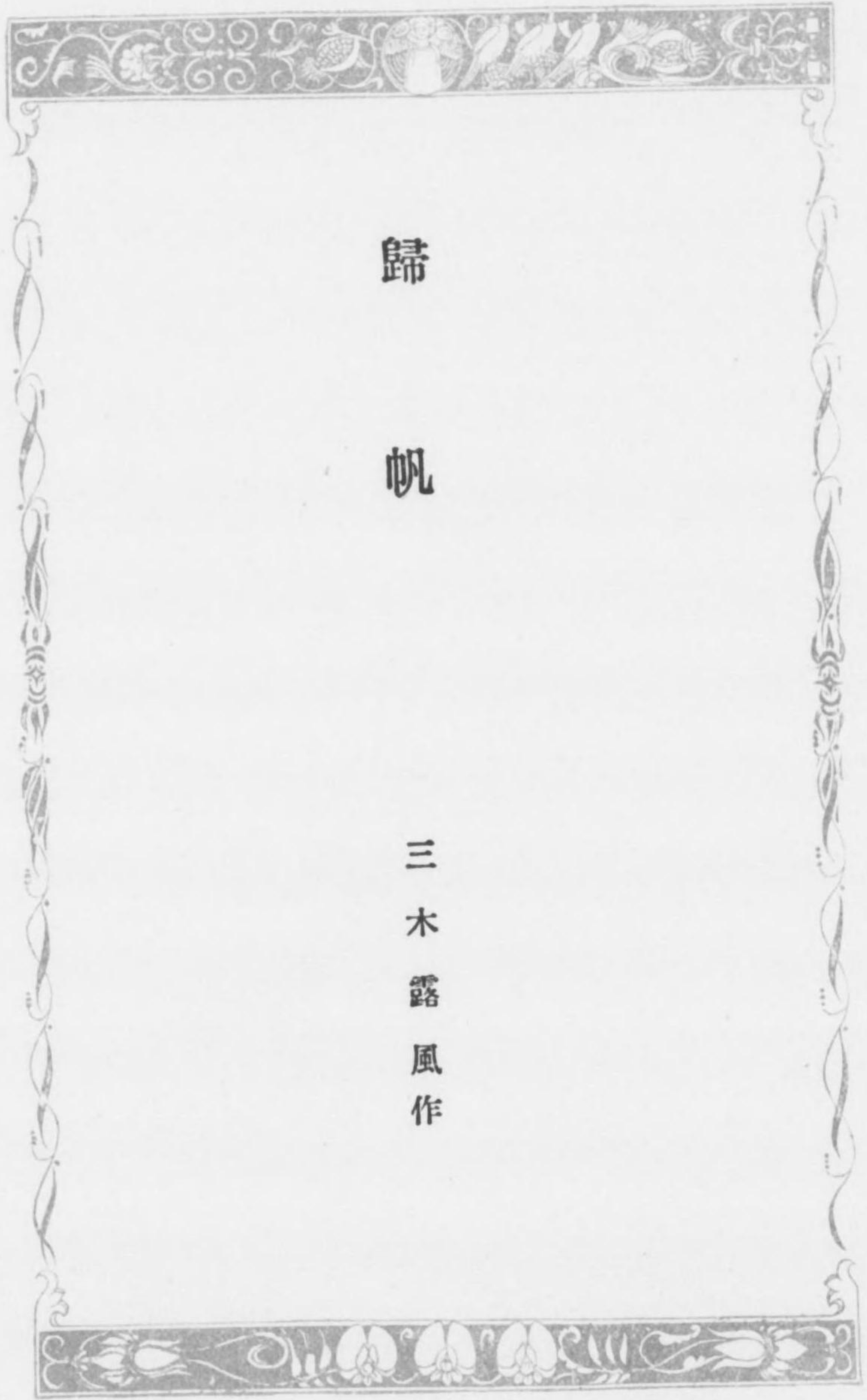
ミドリノ モリーノ ナツカーシヤ
こかげの なつーの なつかーしや

緑の小島

Moderato.

p みどりのこ-じまはうらら-かなみ
 うちこ-えてわ-がむね-にゆめ
 にあ-らずう-かぶな-りなみ
 うちこ-えていつも-いつもわが
 たまし-ひはたづね-ゆ-くさま
rit.
 もかへ-せぬみどりのこじま

みどりの小島、日はうららか
 なみ打ちこえて、わが胸に
 夢にもあらずうかぶなり。
 波うちこえて、いつもいつも
 わが魂はたづねゆく
 さまもかへせぬ、みどりの小島。



歸

帆

三
木
露
風
作

歸 帆

Andante.

p ふねはゆめごこちひそりかへる

あゆめごこちあかねのふね

f *p* *rit.* くれゆくそらをこぎてかへる

mf みれどあかねゆふべしづけきいのり

そらにきこゆるほしのかなたに

pp ひびくふなうた

ふねはゆめごこち、ひとりかへる

ああ、ゆめごこち茜のふね

暮れ行く空を漕ぎてかへる。

みれどあかねゆふべ

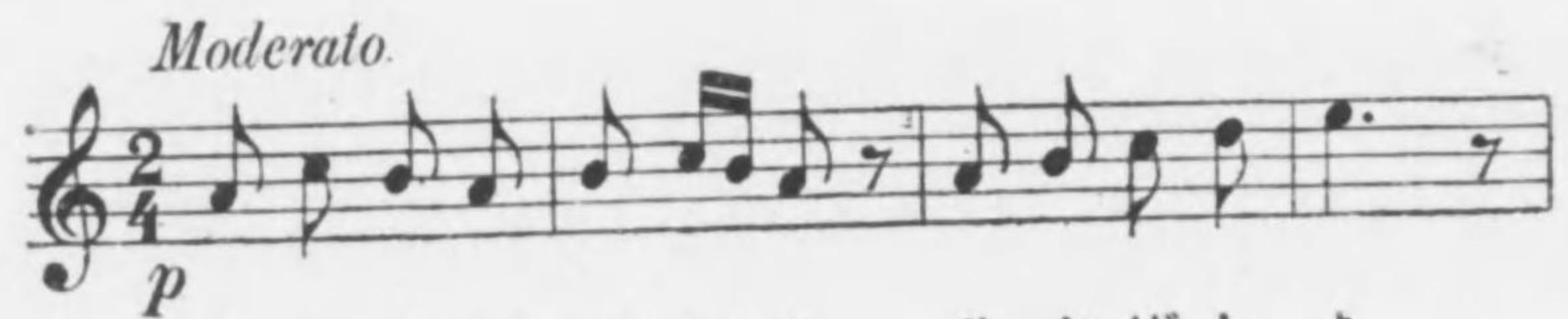
しづけきいのり空にきこゆる

星のかなたにひびく款乃。

ひなげし

川路柳虹作

ひなげし



わたしのすきなひなげしよ



をとめのやうに燃えてゐる



いつもほしいかくちづけが



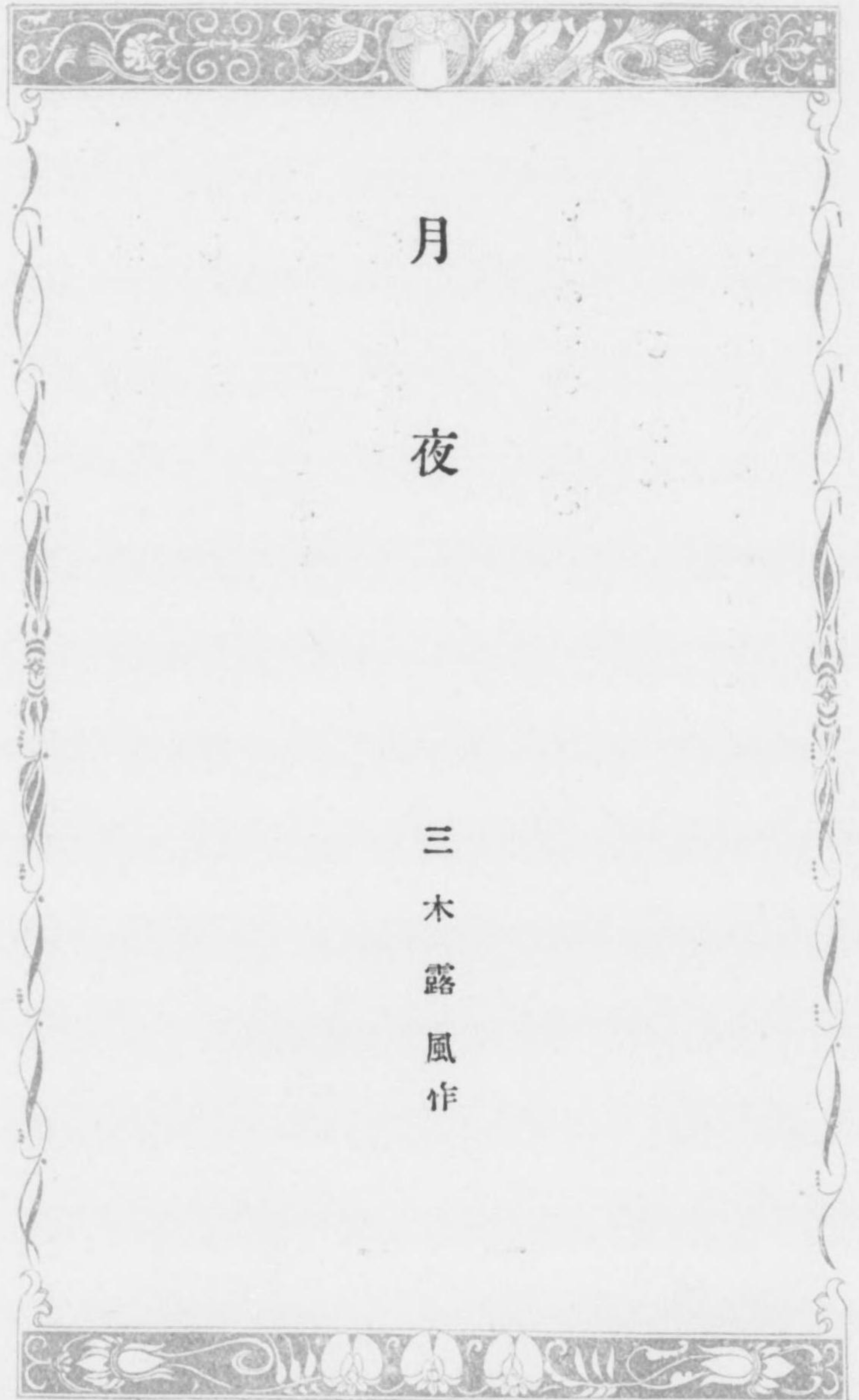
五月の風にひなげしよ

五月の風ごむつのかぜにひなげしよ。

いつも欲しいほいかくちづけが

をとめのやうに燃もえてゐる。

わたしの好すきな雛ひな罌び粟ぎよ



月
夜

三
木
露
風
作

月 夜

Andante.

p あかるき なみのうへこゑしも

pp -あ-ら-ず - つきだけゆるるなりおきべ

rit. はるかに - きはみなき - おほぞら を

f た-ましひは - ミ-びゆ - かん

p しろがねに - ぬるる ゆめぢへ

あかるき波のうへ
聲しもあらず
月くだけ揺るゝなり
沖邊はるかに。

きはみなき大空を
魂はとび行かん
しろがねに濡るゝゆめぢへ。



所有權著作

大大大
正正正
九九九
年々年
五五四
月月月
二二二
五一十
五
日日日
三再發
版行刷

象牙の笛
定價壹圓八拾錢

著 者	小 松 耕 輔
發 行 者	東 京 市 神 田 區 中 猿 樂 町 十 五 番 地 北 原 鐵 雄
發 行 者	東 京 市 神 田 區 中 猿 樂 町 十 五 番 地 鈴 木 泉 藏
印 刷 者	東 京 市 小 石 川 區 久 堅 町 四 十 五 番 地 山 本 源 太 郎

發
行
所

東京市神田區中猿樂町十五番地
會社資
了

電話九段一三七七番
振替東京二四八八八番

白秋小唄集

北原白秋氏著

小唄二百餘篇 燦爛寶玉の如き歌集

雨はふる、ふる、城ヶ島の磯に
利休鼠の雨がふる。
雨は眞珠か、夜明の霧か、
それともわたしの忍び泣き

(城ヶ島の雨の一節)

歌ひ易く解し易く愛誦措く
能はざる小唄二百餘篇を収
む
附録「さすらひの唄」「酒場
の唄」「こん度生れたら」「カ
ルメンの唄」「山の唄」「別
れの唄」本文二度刷、表紙
サラセン模様絹織子表紙袖
珍判箱入

好評嘖々 忽十版。日本詩壇の聖書

定價 圓十八錢 送料 六錢

繪入童謡 玉眼のぼんと

北原白秋氏著

矢部季氏装幀及畫

清水良雄氏畫
初山滋氏畫

全國を風靡せる白秋氏の童謡集が出来ました。子供が手を叩き
足を跳らして喜んで歌ふ唄はこれです。日本が上下三千年を費
してやうやくただ一人生み得たる文字通りの最初の民謡詩人の
傑作として永久に傳へらるべき製作はこれです。殊に本書の誇
とすべきは装幀に挿畫に最善の華麗をつくしたことで童謡一篇
ごとに燦然たる色刷の挿畫を一葉づつ附してあります。

原色版、色刷挿畫二十八葉。忽五版

定價 圓九錢 送料 拾錢

小抒情
詩情
さぐなれすわ

著氏秋白原北

斯の如く美しく、優しく、懐しき詩集他にありや

なわすれぐさ

面帕おもてぎぬのうしろに見えて、
その眸まなこにはふごとくも、
空いろに透すきて、葉かげに
今日も咲く、なわすれの花

本書はその美しさ、懐しき
讀めば涙も溢れ出づべき白
秋氏の抒情小曲を収めたも
のである。装幀は山本鼎氏
白金の光澤美しき絹織子に
クロバーと螢の模様をあら
はした瀟洒清新の趣は見る
からに心躍るばかりである

錢 八 料送 錢十八圓壹 價定

忽 十 版。眩 目 燦 爛 たる 美 装

歌 集 雲 母 集

裝及畫著氏秋白原北

日 本 歌 壇 空 前 の 大 歌 集 出 づ

白秋氏深く大自然の秘奥に沈潜して眞實一路の道を進る。本書
收むる處十二章六百首、度まじき懺悔の涙と切々として新なる
流離の悲を歌ひ、更に一轉して赫奕たる新生の歡喜にうつり、
光明無碍の法悦味と恍惚たる藝術の三昧境を叙せるもの、放膽
或は莊麗、單純或は直截、高逸或は素朴、その彫心鏤骨の苦心
と全卷に横溢せる濃潤たる生の躍動は日本歌壇嘗て類例を見ざ
るの壯観たり。神韻縹渺たる挿畫、華麗清新を極むる装幀共に
著者の筆になり高貴比すべきものなし。眞に白秋氏の全生命よ
り燦めき出でたる渾然たる不朽の大歌集は即ち是。

錢 貳 拾 料送 錢拾參圓貳 價定

木 版 色 摺 挿 畫 四 葉 忽 五 版

ア ル ス 樂 譜

第六編	第五編	第四編	第三編	第二編	第一編
小木露風氏作曲 小松耕輔氏作曲	室生犀星氏作曲 小松耕輔氏作曲	森鷗外氏作曲 小松耕輔氏作曲	北原白秋氏作曲 小松耕輔氏作曲	北原白秋氏作曲 小松耕輔氏作曲	北原白秋氏作曲 小松耕輔氏作曲
接吻の後に	砂丘の上	砂羅の木	赤い夕日	芭蕉	泊り舟

横堅 七一 寸尺 六四分 大判華麗無比の樂譜
 定價 各冊 拾五錢
 送料 各六錢

終

